

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171200233		
法人名	有限会社 ベターライフ建築事務所		
事業所名	グループホーム いっぽ		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字蓑原3067-2		
自己評価作成日	平成26年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年3月5日	外部評価確定日	平成26年3月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は、旗揚げ神事とぼたもちで知られる綾部神社の南方に位置しています。寒水川のほとりに建ち、春は綾部神社の桜、夏の夜は寒水川のホタル、秋には土手の赤い彼岸花、冬には里山の雪景色を居室の窓から眺めることが出来ます。リビングはいつも明るく暖かです。特に冬場は24時間の床暖房を設置しており、寒さ知らずで過ごしています。台所はリビングと対面式なので調理しながら入居者の様子がわかります。食事時になると美味しそうな香りが食欲を誘います。浴室は数年前リフト式に改修を行い、現在は歩けない方でも安心して浴槽につかることが出来るようになりました。入居者には毎日の生活の中で役割を持って頂くため、掃除機かけ、モップかけ、洗濯物干しやたたみ、食器拭きなどそれぞれにできることをお願いしています。4月は蓑原神社で花見、6月は近くの菖蒲見物、11月は山田のひまわり見物など毎月イベントを企画して行っています。また手書きのいっぽ便りを毎月ご家族に郵送して近況をお知らせしています。家庭的な雰囲気を大切にして、入居者ひとりひとりがゆっくりと穏やかに過ごせるよう職員一同心を配っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

管理者の思いは、「介護技術は高いという職員よりも、例え技術は低くても入居者に寄り添える気立ての良い職員であってほしい」に表れている。入居者と目線を合わせながらゆっくりと話し掛け、傍らに居る職員の姿勢には、その思いが伝わっている。また、調理上手な職員が多いことも自慢である。入居者にも評判が良く、食欲も旺盛である。職員のチームワークの良さは、入居者が穏やかに過ごしている姿からも感じられる。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年の外部評価で唱和するには長いのでは、と指摘をうけたので、コンパクトにした事業所理念を申し送りを行う台所に貼りだし、毎朝申し送りの後に唱和しています。	理念は常に立ち戻る原点と考え、意識付けのためにも唱和を行っている。長文の本来の理念から基本となる言葉を抜き出し、言いやすくしている。毎朝それを声に出すことで改めて理解し、共有へと繋げている。やりたい事を請めてほしくないという気持ちで見守る姿勢にもそれが表れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の除草作業、公民館掃除、資源物分別当番、生ごみ集積所の掃除、など地域の一員として交流しています。回覧板でも情報ももらっています。本年度初めて、施設夏祭りに地区の方を招待して17名の方に参加をしてもらい、楽しい時間を過ごしました。	自治会に加入し、地区の当番の役割などもきちんと務めている。また、回覧板を利用して事業所の紹介チラシを見てもらうなど近所づきあいにも配慮している。野菜の差し入れや世間話をしに訪れる住民もあり、ふれあう機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には区長や民生委員が参加されており、会議の中で行う認知症の勉強会での情報を地区の方にもお話してもらうようお願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で入居者の状況を知られた民生委員さんが、地区の夏祭りに誘ってくださったり、仲間の方と歌や踊りの慰問にみえたり、手作りケーキを持参されたりと入居者に喜んでもらっています。	運営推進会議が事業所の報告のみで終わらないように、介護や医療など出席者にも役立つ情報を毎回テーマとして設けている。お互いの意見も双方向となるよう努めている。会議メンバーの中には現在入居の家族はもちろん、過去の入居者の家族もいて、幅広く率直な意見が聞けるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の担当が鳥栖広域になっており、事故の報告やサービス状況などを知ってもらっています。また入居者状況を毎月広域に報告し、メールや郵便物での情報交換を行っています。	運営推進会議メンバーでもある鳥栖広域の担当者や、地域包括支援センターの担当者とも日頃から顔なじみであり、実直に対応してもらえる関係が出来ている。電話より直接会って話すことも多く、最近ではケアのヒントとして、入居者の生活歴をより深く知ることなどがアドバイスされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての資料で勉強を行い、全職員が理解できるように努めています。	職員は身体拘束の内容とその弊害を理解している。マニュアルもあり、勉強会も行っている。しかし、玄関の施錠については事業所の立地環境が通行量の多い道路に面しているため、入居時には理解を求め同意書ももらっている。だが、職員の見守りなどを工夫することで、安全を確保しつつ自由な暮らしが支援できるものと検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加後、苑内では会議の時に研修を行い、個々のサービスについても、日常的に不適切な介護がないか職員間で話合っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に成年後見制度を利用されているかがおられます。また現在は安心サポートを利用中の入居者が成年後見制度を検討中のため地域包括センターと情報交換をして連携を取っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際、詳しく説明を行い解らないことはいつでも聞いていただくよう伝えていきます。介護職員処遇改善加算の料金改定時と医療連携加算を開始するときは、新たに契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には日頃の様子をお話して、介護に対する意見や要望をお訊ねしています。また、玄関に意見箱を設けて話しにくいことは、書いてもらうようにしています。	家族の来所時を絶好の機会と捉え、何でも話してもらえるよう努めている。毎月のいっぽ便りで細かく様子を伝え、そこから意見も聞けるよう努めている。また、事業所の外にも相談や要望が表せる場があることを書類に明記し、説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員からの意見は直接または主任を通して管理者に上がってきます。改善できる点は直ぐに対応して口頭または申し送りノートで知らせます。毎月の職員会議で再度確認を行っています。	月1回の職員会議は、非番者が出席することもあり1時間を目途に開いている。入居者ごとに検討を行う場でもあり、直に接している職員の意見に耳を傾けている。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛け、職員の思いも汲み取れるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に応じた研修の紹介や勤務時間など職員の事情に合わせて工夫しています。管理者や職員で解決できない問題は、代表に相談しています。これまでは、相談したことはすぐに対応されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県で行われる講演や鳥栖広域主催の研修会に毎回参加して、勉強することを勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、ケアマネネットワーク会議、鳥栖三養基地区グループホーム協議会など時間の許す限り参加しています。南風グループとは交流があります。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に家族と本人の話を聞きます。また入居された後、日常の生活の中で、ご本人が困っていることや、不安なこと、したいこと等を徐々に探っていき、職員全員で情報を共有して、不安をなくし、信頼してもらえるよう援助を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にこれまでの生活状況をお訊ねして家族の不安や困っていることに対応して入居後の介護計画を立てます。入居後は面会時に施設生活の様子を伝えています。対応に困るような場面では、すぐに家族に電話連絡を行い、直接判断を仰いでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の状態で、医療などの他のサービスも必要と思われる場合は利用してもらうようにお話しています。入居後すぐに安心サポートのサービス利用を開始した方があります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の様子を見ながらできられそうなことをお願いしています。掃除機かけ、モップかけ、洗濯物干しや畳み、台拭き、配膳下膳、食器拭きなどそれぞれにしてもらい、職員が助けてもらう場面も多くあり感謝しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会や外出は職員にとっても嬉しいことです。いつでも来てもらえるようにお話をしています。毎週月曜日に娘さんとコーラスの練習に出かける方もおられます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所から入居された方は、近くを散歩していたら窓からお顔が見えたからと知人が立ち寄り来たりします。ご友人がたくさん面会に見える方もあります。いつでも来ていただけるようお願いしています。	入居時に、本人や家族、担当のケアマネジャーからも話を聞き、人間関係や地域とのつながり等を把握している。できるだけその関係が維持できるよう、電話や近所へのドライブ等でも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度5の寝たきりの方以外はリビングで過ごされます。話したりレクと一緒に唄ったり、時には居室をたずねて談話をしたりされています。トラブルがある時は職員が中に入り話を聞くようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関やほかの施設に入所された方も家族にその後の様子を電話でおたずねして、困っておられる際は相談に乗るようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活や会話の中から本人の希望を把握するようにしています。特に入浴時は介護スタッフにいろいろな話をされ職員から情報として上がってきます。ご本人の意思表示が困難な方は表情や言動、また家族の意向を大切にしています。	職員は入居者の思いや意向を日々の関わりの中で汲み取るようにしている。居室を訪ねて話し相手をし、思いを聞くこともある。やりたいことを諦めるのではなく、何か方法はないかと模索することもあり、常に関心をはらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や担当していたケアマネさんなどから情報収集をします。入居後は本人にレクや会話の中で聞いたり、また家族からは面会時に情報収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、心身状況、ADL状態を把握して、現存機能を生かせるようなケアを心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医に意見を聞き職員間で話し合いながら、介護計画を作成しています。毎月行う会議の中で入居者の状況について話し合うことがモニタリングの一環になっています。	介護計画は、設定期間毎の見直しはもとより、本人や家族の要望、変化に応じて臨機応変に対応している。本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。なかなか会えない家族には自宅を訪問して話を聞くこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録と社長報告書を毎日記録し朝と夕に申し送りを行っています。また申し送りノートで日々の情報を職員間で共有し、ケアの統一や介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況の変化でニーズも変化するので固定観念に捉われず、より良い生活が実現できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや時代祭への参加、桜や菖蒲、山田の遊水公園やひまわり見物など、豊かな自然を楽しみ、元気に暮らしてもらえるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回は定期でかかりつけ医の往診があります。緊急時はいつでも電話連絡で指示や往診がされます。また、他の病院に家族と定期的に受診されている方やかかりつけ医の紹介で専門医に受診されている方もいます。	本人や家族が希望するかかりつけ医受診となっている。事業所の協力医でもあり、24時間対応してもらえることは心強くもある。また、状況に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師1名准看護師2名が常勤職員の中におり、介護職員はいつでも相談して指示が受けられます。また気づきや情報は看護師の判断でかかりつけ医に連絡して受診や往診につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を文書と口頭で詳しく行っています。入院中は面会に行き情報を収集して、退院時期が近くなれば、お迎えの日時などを病院側と調整しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早期にカンファレンスを行い、家族と施設における終末期の取り組みを相談します。重度化した場合の同意書と看取りの指針に関する同意書を作成してあります。	これまでに看取りの経験がある。入居時には、終末期で事業所が対応するケアについて説明を行っている。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう、その都度、意思を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員の職員が消防署で行われる救急救命の講習を受けています。入居者の急変時は看護師の指示、かかりつけ医への連絡、救急搬送の要請などの手順をきめており、看護師や医師の指示のもと応急手当を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもとで定期的に避難訓練を行っています。警報機能付感知器とスプリンクラー設備や火災通報装置専用電話器も設置しています。	年2回、消防署の立会いで入居者も一緒に避難訓練を行っている。職員は消火器や火災通報装置の使い方も学んでいる。これからは、水や非常食等の備蓄と一次避難場所の検討をし、更には地域住民の協力も必要なことから、検討している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対する言葉かけや態度が馴れ合いになり、プライドを損ねることがないように注意しています。特に排泄介助や入浴の際はプライバシーに配慮しています。	入居者を年長者として敬意をはらい、援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に、さりげないケアを心掛けている。また、守るべき情報についても責任ある取り扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やおやつ、水分など好きなものを選べるようにしています。また外出の希望なども聞き、一緒に行くこともあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自の睡眠のペースで朝食の時間は起床されてから好きな時間に摂取されます。一人一人のペースを職員が把握して思いを表現できるような言葉かけを行い希望に沿った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際の衣類選びをお手伝いしたり、化粧品などの支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、配膳下膳、食器洗いや食器拭き、台拭きなど入居者の能力に応じたお手伝いをお願いしています。昼食は職員も一緒にリビングで食事をしています。	入居者は出来る事を自然な形で手伝っている。食事は職員も同じテーブルで一緒に食べ、味付けや食材のことが話題となり和やかな雰囲気である。献立は調理当番の職員が考えているが、これからは更に入居者の希望を取り入れた食事を提供できるよう検討してい	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新鮮な野菜中心のメニューを心がけ、食品の形態や柔らかさ、食事量など一人一人の好みや状態に合わせて提供しています。水分や汁物にはとろみ剤を使用したりキザミ食やミキサー食の提供も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は職員が行い、残渣物がないように注意しています。義歯の方は誘導して口腔ケアを行い、夜間は義歯を預り毎日ポリデント消毒をして翌朝お渡ししています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現在は自立された方が多いのですが、排泄介助が必要な方は、希望時と排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行い、失敗がないように援助しています。	トイレでの排泄を大切に考え、本人のリズムに沿った支援をしている。職員は入居者ごとのパターンも把握しており、自尊心にも配慮したさりげないケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、排泄表にて便秘の確認を行い、牛乳やバナナなど繊維の多い食事を提供、腹部のマッサージなどで対応します。長期になった場合は、看護師の指示で緩下剤にて排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に4回の入浴日に体調や状態に合わせて入浴の支援を行っています。入浴嫌いの方は声かけに工夫をしています。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を使って、季節の変化を感じられる様にしています。	週4日の入浴日があり、その内週2回の入浴を予定しているが、希望があったり、夏場に汗をかいたりすればいつでも対応している。浴室にリフトが設置されてからは職員、入居者共に負担が軽減され、リラックスした入居者から思いが聞けることもある。衣服の脱ぎ着はできるだけ本人に任せ、職員は見守りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は自由です。夜間は好みに応じて空調や加湿調節を行っています。また昼夜逆転の方には、日中は気分転換して傾眠を予防をしています。お疲れの時は、午睡を勧めたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師で行います。個人の薬剤情報提供書を作成して、処方箋や検査結果を一つにまとめています。また個人記録の熱計表にも薬剤情報の記述があります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせた施設での役割を持たれるように食器拭きや掃除の手伝いをお願いしています。好みに合わせたお菓子やお茶を提供したり、散歩や買い物、ドライブでの気分転換を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により散歩や買い物ドライブの支援を行いません。地域の方の声かけで夏祭りや時代祭に参加し、また地区の桜、菖蒲、ひまわり見物などをおこなっています。	職員は、入居者にとって外出が五感の刺激によく、ストレスの発散になることも理解している。暖かい時期の近所への散歩や、天候や体調をみでのドライブなど、短時間でも戸外に出る機会をつくっている。また、年間行事として予定していることもあり、家族の参加も促している。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しっかりされている方は個人管理され、施設にお小遣いを預けて管理している方また家族が管理している方もあります。施設管理の方は個人出納帳を作成定期的に家族に確認をお願いします。希望時に渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あらかじめ家族が許可をしている相手とならいつでも電話を掛ける援助はしています。手紙のやり取りも希望があれば代筆や投函などを行います。必ず家族に確認してから行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は障害物をなくし整理整頓を行っています。リビングは南側で明るく床暖房を設置して快適な空間です。人形や花を飾り、季節感を感じられるようにしています。	入居者が多くの時間を過ごすリビングは生活感のあるものや季節を感じるものが飾られ、居心地の良い場所となるよう支援されている。床暖房で自然なぬくもりを感じる中、入居者は思いおもいにソファに座り、隣の方と会話をしながら日中を過ごしている。トイレや浴室もきれいに掃除され嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや食卓の椅子はほぼ決まっており自分の席でゆっくり過ごされます。廊下に3か所ソファを配しており、談話などを行えるくつろげる場所になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇がある人もおられます。家族には好きなものを持ち込まれるように伝えていきます。足りないものがある時は職員が家族にお願いします。	居室に持ち込む物に火気以外の制限はない。仏壇を持っている方には毎朝の仏飯やお茶、生花を供えること等の支援をしている。家族が来所の際に、もらった孫やひ孫の写真を飾っている部屋もある。居室の掃除は本人にも手伝ってもらい職員が行っている。入居者ごとに決められた担当職員は衣替え等も気掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室などには必要な表札を貼っています。廊下には手すりがあり、浴室にはリフト設備の改修をしました。玄関は段差があるため車いす外出時はスロープを出せるようにしています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない